

第422回: 中国最高指導部あれこれ

まずは2頁飛ばして、第3頁の「中国共産党 最高指導部一覧表」をご覧ください。今年10月に開催された中国共産党第19回大会で誕生した25名の「党中央政治局委員」一覧だ。

中国共産党の出世競争に約束事があるわけではないが、党員約9000万人の最高峰に登攀するためには一般共産党員から出発して、中央候補委員⇒中央委員⇒中央政治局委員⇒中央政治局常務委員というステップを一段ずつ踏むのが通常の出世ルート。

例えば今次大会をもって勇退した常務委員の王岐山(69 規検委書記)、張高麗(71 筆頭副首相)両氏は97年の第15回大会で中央候補委員に当選し、16回大会で(02年)で中央委員、17回大会(07年)で政治局委員、そして18回大会(12年)で常務委員に登り詰めた。若い頃から次世代のエリートと目されてきた両氏ですら、階段を一步ずつ登る必要があったように、これが中国的出世の大原則。時に「飛び級出世」する人物が出てくることもあるが、それはあくまでレアケースである。

ところが今回の党大会は飛び級出世が頻発する大乱戦となった。黄坤明(60)、丁薛祥(55)のように中央委員候補から政治局委員に昇格することすら珍しいサプライズなのに、楊曉渡(64)、蔡奇(61)の両氏に至ってはヒラ共産党員から政治局委員への大抜擢だ。

過去に胡錦濤(74)、習近平(64)、李克強(62)が中央委員から政治局委員をパスして政治局常務委員になった事例はあるが、あれは「二段飛び」であって、ヒラ党員の「三段跳び」は、文革の混乱期を除けば初めてのケースではないだろうか。

二期目に突入した習近平政権は、一党独裁から個人独裁に衣替えしたのではと揶揄されるほど、強引な人材抜擢を強行しており、これまで無名の存在であった習氏側近や、お友達を一気に強引に政治局に引き上げたことが、一覧表の昇格履歴を見ればよくわかる。習主席は、してやったりとご満悦だろうが、習さんと運命的な出会いをするまでは、人生の大半を浙江省や福建省の片田舎でくすぶらせていた無名の連中が多すぎて、そんなぼっと出の連中の経歴や系列等を調べるチャイナウォッチャーは大変苦労している。

企業も役人も一緒だと思うが、中小企業でもない限り、出世するためには「継続性の原則」が重要であり、過去の経歴の積み重ねがモノを云う。だから、汪洋(62)、王滬寧(62)、胡春華(54)といった俊英は昔から斯界では有名な存在で、「鄧小平が引見した」、「習近平を叱りつけた」、「16歳で北京大学に入学した」等々、有名なエピソードや著作等があるものだが、ついこないだまでコモンピープルに過ぎなかった有象や無象の方々に、そんな逸話があるわけもない。

ついでに云えば、氏名を覚えるのに苦労するのが陳希(64)、李希(61)、李強(58)と、名前まで平凡な方々だ。中国で最多の氏名は「王濤さん」で全中国に10万人以上いるらしいが、陳希さんや李希さんも10万人近いそうだ。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

1/4

25人の政治局委員のなかで、日本人が最も発音しやすいのが習近平(シージンピン)、汪洋(ワンヤン)、李希(リーシー)、陳希(チェンシー)。そのままカタカナ読みすれば、14億人の中国人に通じることを筆者が保証する。

氏名に日本語にない漢字を使う中国人には困る。司法・公安・諜報等を統括する政法委書記に就任した郭声琨の「琨(王へんに昆)」は日本語にない漢字。一方、宣伝部長の黄坤明の「坤」は「乾坤一擲」のコンとして日本語に存在する。楊潔篪の「箴(チ)」は常用漢字ではないが竹笛の意で、日本でも時々見かける。

話題を変え、留任・昇格とならなかった気の毒な人々に就いてチョット一言。今回引退した政治局委員の中で張徳江(71)、俞正声(72)たちは「七上八下」という68歳定年の内規に基づいて身を引いた。腐敗追放キャンペーンで大活躍し、李克強首相を凌ぐ存在感を見せた王岐山もルールに従い引退した。

問題は68歳に達していないにも拘わらず政治局から去った3人の人物。サプライズは、11月生まれで、18回大会時点で66歳であった李源潮・国家副主席の引退。彼は19期中央委員に選ばれず政界から完全引退した。過去に68歳前に引退した政治局委員がいない訳ではないが、彼ほどの大物が2年の余裕を残して引退したのは意外だった。しかし彼を巡っては、江蘇省時代の側近の多くが、腐敗追放キャンペーンで失脚しており、彼は司直の手が届く前に、司法取引でハッピー・リタイアに成功したとの見方も有力だ。

もっと大きな驚きは第19期中央委員として留任したにも拘わらず、政治局委員をポストオフされた劉奇葆(前・組織部長)と張春賢(前・新疆ウイグル自治区党委書記)の二人だ。

劉奇葆氏は「宣伝工作に問題があった」と批判され、張春賢は新疆ウイグル自治区におけるテロ対策で、ウイグル族に対する穏健な融和政策を取ったことが中央から批判されたことが響いたようだが、それなら、李源潮のように引退するチョイスもあったはずだ。

サラリーマンの世界で云えば李源潮役員は自ら辞表を出すことによって、不透明な資金取引を追及されず、円満辞任を認めてもらったケースかな。習社長は諭旨免職とせず温情ある辞職を認めたらしい。

一方劉奇葆、張春賢執行役員は公金横領疑惑ではなく、単なる業績未達。執行役員をクビになり孫会社の社長に飛ばされるようだ。来春彼らは全人代副委員長クラスの閑職に左遷されるのでは。(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

平成29年11月14日

筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本の常識は中国の非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/4



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号

日本証券業協会 加入

本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

資料……中国共産党 最高指導部 ソース:新華社他

1987年の第14回共産党大会から本年の19回大会に至る現最高指導部の昇格履歴

注 共産党員<△中央候補委員<○中央委員<◎政治局委員<★政治局常務委員

氏名欄:下線部:中央書記処の構成員(書記処には、もう一人非政治局委員の尤権氏がいる)

同:黄色の人物は習派とされる人物(筆者見解)

職務欄:斜字は筆者の予想

#	氏名	年齢	職務	87年	92	97	02	07	12	17
01	習近平	64	総書記 主席	—	—	△	○	★	★	★
02	李克強	62	首相	—	—	○	○	★	★	★
03	栗戦書	67	全人代委員長	—	—	—	△	△	○	★
04	汪洋	62	政協主席	—	—	—	△	◎	◎	★
05	王滬寧	62	中央書記処書記	—	—	—	○	○	◎	★
06	趙楽際	60	規検委書記	—	—	—	○	○	◎	★
07	韓正	63	筆頭副首相	—	—	—	○	○	◎	★
08	許其亮	67	軍委副主席	△	△	△	○	○	◎	◎
do	孫春蘭	67	中央統戦部長	—	—	△	△	○	◎	◎
do	胡春華	54	副首相 or 国家副主席	—	—	—	—	○	◎	◎
do	陳全国	61	新疆自治区党委書記	—	—	—	—	△	○	◎
do	郭声琨	63	国務委員 政法委書記	—	—	—	△	△	○	◎
do	楊潔篪	67	国務委員 外交担当	—	—	—	△	○	○	◎
do	李鴻忠	61	天津市党委書記	—	—	—	△	△	○	◎
do	王晨	66	全人代副委員長	—	—	—	○	○	○	◎
do	劉鶴	65	発改委副主任⇒??	—	—	—	—	—	○	◎
do	李強	58	上海市党委書記	—	—	—	—	—	○	◎
do	張又俠	67	軍委副主席	—	—	—	—	○	○	◎
do	陳敏爾	57	重慶市党委書記	—	—	—	—	△	○	◎
do	陳希	64	中央組織部長	—	—	—	—	—	○	◎
do	黄坤明	60	中央宣伝部長	—	—	—	—	—	△	◎
do	丁薛祥	55	中央弁公庁主任	—	—	—	—	—	△	◎
do	李希	61	広東省党委書記	—	—	—	—	△	△	◎
do	楊曉渡	64	監察部長	—	—	—	—	—	—	◎
do	蔡奇	61	北京市党委書記	—	—	—	—	—	—	◎

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

ご投資にあたっての注意事項

手数料等およびリスクについて

① 株式の手数料等およびリスクについて

- ・ 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大 1.2420% (税込み)、最低 3,240 円 (税込み) (売却約定代金が 3,240 円未満の場合、約定代金相当額) の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。
- ・ 外国株式等の売買取引には、売買金額 (現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額) に対して最大 0.8640% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

② 債券の手数料等およびリスクについて

- ・ 非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

③ 投資信託の手数料等およびリスクについて

- ・ 投資信託のお取引にあたっては、申込 (一部の投資信託は換金) 手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

④ 株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- ・ 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大 0.0864% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- ・ 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大 4.320% (税込み)、最低 2,700 円 (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

4/4

